

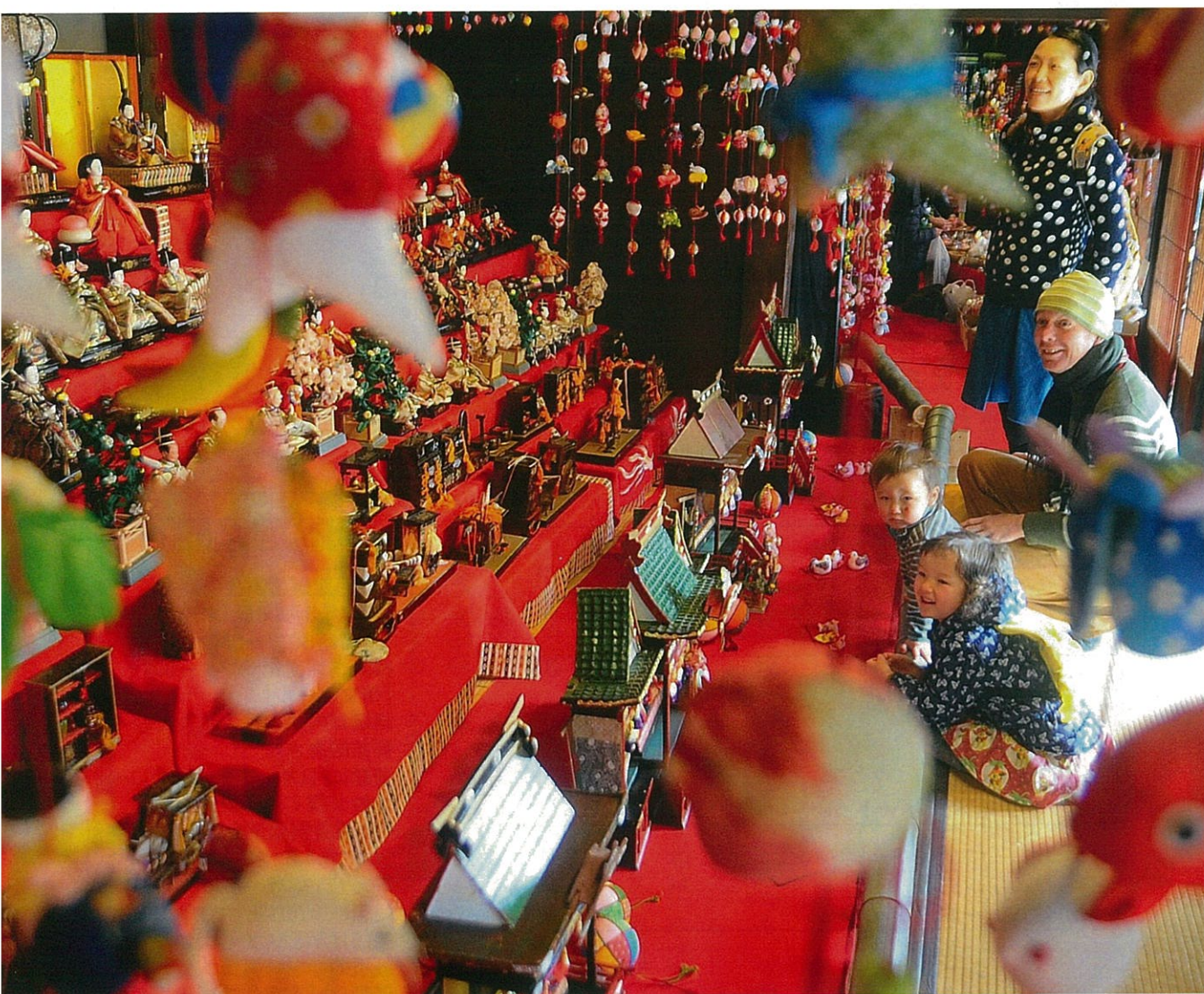
2017 2/28

No.2037

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



開成町金井島の「あしがり郷 瀬戸屋敷」で、恒例の「ひなまつり」が始まった。段飾りや8千個以上のつるしびなが来訪者の目を楽しませている。3月5日まで。



視点・点描	3
望ましい保育行政とは	
国 際	4
「世界はどこに向かうのか」 日中均衡に配慮したトランプ氏	
経 済	6
日米自動車摩擦の悪夢再び？ 不公平批判に日本勢、戦々恐々	
社 会	8
「医療ツーリズム」に熱い視線 地方に残された成長分野	
くらし2017	10
増える悪性リンパ腫	
広告珍談	12
広告はたのしい③④ 鉄ジョにどうぞ	
NNAアジア経済レポート	13
神奈川景気データファイル	14
神奈川景気データファイル	15

事務局だより

◇3月定例講演会

2017年3月16日(木)

午後1時30分～3時

横浜情報文化センター6階

「情文ホール」

講師は内閣総理大臣夫人の

安倍昭恵さん

演題は「日本の未来のために～
女性が輝く社会づくり」

◇4月定例講演会

2017年4月12日(水)

午後1時30分～午後3時

崎陽軒本店5階「マンダリン」

講師は早稲田大学大学院客員
教授の春名幹男氏

演題は「トランプ米政権でど
うなる世界と日本」

視点 点描



望ましい保育行政とは

もうすぐ新年度。4月から子どもを保育園に預け、職場復帰しようとするお母さん、お父さんにとっては悲喜こもごもの季節である。

というのも、認可保育園の第一次選考結果が分かるのが、自治体にもよるが2月上旬ごろ。落ちてしまった場合は、空いている保育園を必死で探さなくてはならない。通える範囲で空きが出た保育園があれば第二次選考に申し込むが、

また落ちるかもしれないので、無認可保育園にも当たりをつけなくてはならない。

昨年は「保育園落ちた。日本死ね」というネットの書き込みが話題になった。共働きをしなくてはならない家庭にとって、子どもが保育園に入れるかどうかはそれこそ「死活問題」だ。7年前、わが家も認可保育園に落ちた。それも応募した七つの保育園すべてに落

ちた。その経験から、望ましい保育行政を考えてみたい。

わが家は夫婦ともマスコミで、フルタイムで働いている。認可保育園に応募した時点で、私は勤続20年。継続して働いている親が保育園に落ちるはずがない、という過信があったといえればそれまでだが、「全落ち」という通知をもらった日は本当に目の前が真っ暗になった。もう会社には4月から仕事に復帰すると伝えてあった。

必死で空きを探し、なんとか認証保育園に入ることができた。入れなかった人もいる中、ラッキーだったといえるだろう。需要と供給のバランスが偏っているためなのは分かるが、保育園に入れるかどうか「運」でいいのだろうか。娘が小学生になった今も、保育行政には納得できない。

安倍晋三首相は「すべての女性が輝く社会づくり」を掲げ、仕事と子育てが両立できる施策作りを進める。しかし働く女性にとって

はしらはらしく聞こえるばかり。働く母親の切なる願いは「安心して通える保育園に入りたい」ということ。子ども全員が小学校に入学できるように、希望者は全員、保育園に入れる社会の実現を目指してほしい。

納得がいかず、区の担当者に電話で問い合わせたところ「持ち点が足りません」との返事。私が住んでいる自治体は、応募者が子の保育をどのくらい必要としているかを点数化している。すでに子どもが認証保育園や無認可保育園に通っていると加点される。そこが「合否」の分かれ目だった。

仕事復帰まで2カ月を切る中、

(神奈川県新聞社文化部長

秋山 理砂)

鉄ジヨにどうぞ

この図、なにに見えるだろう。
まっ正面から見た電車、つまり
電車の顔である。

鉄ジヨも、もーれつ鉄道マニア
も、まず顔を撮る。胴体や中身よ
りも、まず顔である。

この顔、べっぴんさんかそうで
ないかは別として、箕面有馬電車
の顔である。1910（明治43）
年3月10日、大阪の各紙に掲載さ
れた全ページ広告。車体に花を
いっぱいつけて、開通のお飾りだ
ろう。

右の窓から「梅田ヨリ箕面・宝
塚」「朝五時ヨリ夜十二時マデ絶
へズ運転ス」「梅田ヨリ往復 池
田廿八銭 箕面卅八銭 宝塚卅八
銭」と読める。その下には路線図。
ミノオは「箕面の滝」で知られ
る大阪府北部の観光地であり、い

まは衛星都市である。幼いころ大
阪市内に住んでいたボクは、親に
連れられ、たびたび出掛けた。秋
はモミジの名所で、モミジの葉っ
ぱの天ぷらが呼び物。どう、おい
しいのか忘れたけど、たぶんいま
も同じだろう。

箕面有馬電車は、広告掲載のそ
の年その日に開通した私鉄。現在
は阪急電車

のミノオ線、
本線は宝塚
に向かう、
基幹線であ
る。

阪急電車
を創設した
小林一三は
1873（明
治6）年、山

梨県葦崎の生まれ。慶応義塾を卒
業。三井銀行に入社、いろいろあつ
て退職。かつての上司、北浜銀行

の頭取・岩下清周の支援をうけて、
箕面有馬電気軌道の専務（社長は
空席）になった。といっても始発
駅の梅田は、たんぼのまん中。い
までは想像もつかない、辺りなど
ころであった。

そんな梅田よりもひなびたミノ
オや宝塚に、小林は電車を走らせ
た。とても乗る人はいないけど、
そうではなかった。小林は、乗る

人を作ったのである。どうしたの
だろう。

彼はこういった。家がたてこん
でいる大阪、煤煙だらけの大阪に
住むよりも、澄みきった空気、自
然ゆたかなわが沿線に移りません
かと。池田に宅地をつくり、その
パンフレットに書いた。自分も池
田に住まって、電車で通勤した。
日本最初の不動産事業、大ヒット
した。

すごいのは、沿線に住む乗客の
利便をはかって、梅田駅の上に阪
急百貨店をつくったこと。日本最
初のターミナル百貨店である。そ
の食堂はライスだけでも売った。
カレーライスの追加のご飯である。
半ライスの注文にも応じた。カ
レー抜き、ライスは、つまりご飯だ
けでもOK。まさにナニワの大衆
食堂、大阪も住みよい町になった。
（美術エッセイスト 茅ヶ崎市在住）
（図）箕面有馬電車の広告。1910
（明治43）年3月10日、掲出

